

内閣

法令形式ノ改善ニ關スル件	(大・五・六・一)
資源ニ關スル標準用語ノ使用普及ニ關スル件	(昭六・一・三一)
資源ニ關スル標準用語	(昭六——昭一四)
國語國字ノ整理統一ニ關スル閣議申合事項	(昭一六・二・二五)
資源ニ關スル標準用語整備ニ關スル件	(昭一六・三・二七)
標準漢字表ニ關スル閣議申合	(昭一七・二・四)
当用漢字表の實施に關する件	(昭二一・一一・一六)
当用漢字表	(昭二一・一一・一六)
現代かなづかいの實施に關する件	(昭二一・一一・一六)
現代かなづかい	(昭二一・一一・一六)
当用漢字別表の實施に關する件	(昭二三・二・一六)
義務教育期間中に読み書きともに指導すべき漢字の範圍	(昭二三・二・一六)
当用漢字訓表の實施に關する件	(昭二三・二・一六)
日常使用する漢字の音訓の範圍	(昭二三・二・一六)

○內閣訓令號外 (大一五・六・一官報)

各官廳

法令形式ノ改善ニ關スル件

現今ノ諸法令ハ往々ニシテ難解ノ嫌アリ。其ノ原因ガ内容ノ複雑ナルニ存スル場合ナキニアラザレドモ、記述ノ方法ヨリ來レルモノ亦少カラズ。自今法令ノ形式ヲ改善シテ文意ノ理解ヲ容易ナラシムルコトニカムルハ時勢ノ要求ニ應ズル所以ノ道ナリト信ズ。今此ノ點ニ關シテ特ニ留意スベキ事項ヲ舉グレバ左ノ如シ。

(下略)

大正十五年六月一日

內閣總理大臣

若 槻 禮 次 郎

○內閣訓令號外 (昭六・一・三一官報)

資源ニ關スル標準用語ノ使用普及ニ關スル件

各官廳

資源ニ關スル用語ハ廣ク國民ノ生活活動ニ緊密ナル關係ヲ有シ、之ガ統一ヲ促進スルコトハ平時社會生活上活動能率ノ向上ヲ期スル所以ノ途ニシテ又有事ニ處スルニ於テ特ニ其ノ必要ヲ感ゼシムル所ナリ。仍テ政府ハ資源審議會ニ諮リ其ノ答申ヲ俟ツテ次第ニ各種資源ニ關スル標準用語ヲ決定セシコトヲ期シ、先ヅ藥品ニ關スルモノヲ決定シ本日內閣告示第一號ヲ以テ之ヲ公布シタリ。爾今各

官廳ニ於テハ此等標準用語ノ使用普及ニ力ヲ致シ、率先シテ之ガ使用ヲ勵行スルト共ニ廣ク關係各方面ニ勸奨シテ一般ニ其ノ使用ニ習熟セシムルニ努メ、以テ用語統一ノ趣旨ヲ徹底セシムルニ付萬遺憾ナキヲ期スベシ。

○内閣告示第一號 (昭六・一・三一官報)

資源ニ關スル標準用語中藥品ニ關スルモノ左ノ通り之ヲ定ム

昭和六年一月三十一日

内閣總理大臣臨時代理外務大臣

幣 原 喜 重 郎

藥品標準用語

九九七語 (略)

○内閣告示第四號 (昭七・七・一官報)

昭和六年内閣告示第一號藥品標準用語中左ノ通改正ス

昭和七年七月一日

内閣總理大臣 子爵

齋

藤

實

標準用語「アントラセン油」ノ同義語ニ「アンスラセン油」ヲ加フ

(下略)

○内閣告示第五號 (昭七・七・一官報)

資源ニ關スル標準用語燃料、油脂、塗料及顏料ニ關スルモノ左ノ通之ヲ定ム

昭和七年七月一日

內閣總理大臣 子爵

齋 藤

實

燃料、油脂、塗料及顏料標準用語

三三九語（略）

○內閣告示第一號 （昭一〇・三・六官報）

資源ニ關スル標準用語中機械ニ關スルモノ左ノ通之ヲ定ム

昭和十年三月六日

內閣總理大臣

岡 田

啓 介

機械標準用語

一〇三五語（略）

○內閣告示第一號 （昭一二・一・九官報）

資源ニ關スル標準用語中金屬類、鑛物類及土石類ニ關スルモノ左ノ通之ヲ定ム

昭和十一年一月九日

內閣總理大臣

岡 田

啓 介

金屬類、鑛物類及土石類標準用語（二〇七語）

(略)

○内閣告示第一號 (昭一四・二・二二官報)

資源ニ關スル標準用語中電氣ニ關スルモノ左ノ通之ヲ定ム

昭和十四年二月二十二日

内閣總理大臣 男爵 平 沼 騏 一 郎

電氣關係標準用語

七二五語(略)

國語國字ノ整理統一ニ關スル閣議申合事項 (昭・一六・二・二五)

國語・國字ノ調査研究並ビニ整理統一ヲ圖ルハ、國民精神ノ作興上又國民教育ノ能率増進上、更ニ東亞ノ共通語トシテ醇正ナル日本語ノ普及上、現下極メテ喫緊ノ事ナリ、故ニ政府ハ之ヲ重要ナル國策トシテ左ノ申合ヲナス

一、文部省ニ於テ國語國字ノ調査研究並ビニ整理統一ヲ促進シ、内閣及ビ各省ハ之ニ協力スルコト
二、前項ニ依リ整理統一セラレタル事項ハ閣議ノ決定ヲ經テ内閣及ビ各省速カニ之ヲ實行スルコト

〔備考〕 資源局ニ於ケル標準用語選定上ノ根本方針

一、標準用語ハ平易簡明ニシテ理解シ易ク且語感善キモノヲ選ブコト

二、普通ニ使用セラルル慣用語ハ甚ダシク不合理ナラザル限り之ヲ尊重スルコト

三、國語ヲ尊重スルコト、但シ外國語ニシテ普通ノ慣用語若ハ國際的用語トナレルモノ又ハ適當ノ

譯語ナキハ寧ロ之ヲ尊重スルコト

四、左ニ掲グル用語ハ成ルベク之ヲ尊重スルコト

イ、臨時國語調査會、工業品規格統一調査會、航空評議會及其ノ他ノ權威アル關係機關ニ於テ決定シクル用語

ロ、現行法令又ハ國定教科書中ニ使用セラルル用語

五、略語ト雖モ普通ノ慣用語トナレルモノハ之ヲ選ブヲ妨ゲザルモ極端ニ符牒化シタルモノハ之ヲ避クルコト

六、用字ニ付テハ概ネ左ノ方針ニ依ルコト

イ、努メテ呼稱ニ一致セシムルコト

ロ、意味ナキ漢字ノ使用ヲ避クルコト

ハ、難解ナル漢字ハ成ルベク發音ニ從ヒ片假名書トスルコト

ニ、漢字ハ成ルベク臨時國語調査會發表ノ常用漢字表ニ依ルコト。

〔備考〕

官報送假名

送假名法 内閣官報局編 明治二十二年四月 官報附録

送假名法 内閣官報局編 一冊 明治二十七年四月 八尾書店發行

内閣印刷局研究報告

本邦常用漢字の研究 昭和四年五月

本邦常用漢字の研究（第二回）昭和十年六月

本邦常用漢字の研究 昭和十六年五月

○内閣閣甲第四八〇號

昭和十七年十二月四日

内閣書記官長 星 野 直 樹

文部大臣 橋 田 邦 彦 殿

本日閣議ニ於テ別紙ノ通申合セ之有リ候條命ニ依リ通牒ニ及ビ候

（別紙）

閣議申合

各官廳ニ於テハ別冊標準漢字表ニ照應シテ今後ノ用字ニ考慮ヲ用フルコト

〇企二語第〇〇一號（四）（昭一六・三・二七）

資源ニ關スル標準用語整備ニ關スル件

資源ニ關スル標準用語ハ昭和六年以來資源局ニ於テ（イ）藥品、（ロ）燃料、油脂、塗料及顏料、（ハ）機械、（ニ）金屬類、鑛物類及土石類、（ホ）電氣關係ノ各標準用語ヲ制定シテ之ヲ內閣ヨリ告示シ法令用語トシテ採用ノ上其ノ普及ヲ圖リ來リシモ爾來情勢ノ變化著シク用語ノ種類モ多岐ニ互リ前記標準用語ノミニテハ不充分ナル爲各種學會及技術團體例ヘバ日本機械學會、工業化學會日本化學會電機學會等夫々獨自ノ用語ヲ制定使用シツツアリ。此ノ間相互ノ連絡ナク今日此ノ儘放任スルヤ標準用語制定ノ趣旨ニ反スルノミナラス混亂ヲ來ス惧アルヲ以テ速カニ在來各方面ニ於テ制定セラレタル用語ヲ檢討シ、弘ク資源ニ關スル全般ニ互リ標準用語ヲ一元的ニ整備シ其ノ普及ヲ徹底スルノ要アリト認ムルヲ以テ次ノ要領ニ依リテ曩ニ內閣ヨリ告示セル資源ニ關スル標準用語ヲ改訂増補シ以テ之ガ整備ヲ圖ルモノトス

（一）資源ニ關スル標準用語ノ整備ハ企畫院第七部之ヲ擔當ス

（二）企畫院ハ標準用語整備ノ原案作成ヲ別紙要領ニ依リ全日本科學技術團體聯合會及科學動員協會ニ委囑ス

（三）關係各廳ハ用語原案ノ作成審議ニ付緊密ナル連絡ヲ保ツモノトス

（四）標準用語案ハ閣議決定ヲ經テ之ヲ內閣ヨリ告示ス

○内閣訓令第七号

各官廳

当用漢字表の実施に関する件

從來、わが國において用いられる漢字は、その数がはなはだ多く、その用いかたも複雑であるために、教育上また社会生活上、多くの不便があった。これを制限することは、國民の生活能率をあげ、文化水準を高める上に、資するところが少くない。

それ故に、政府は、今回國語審議會の決定した当用漢字表を採択して、本日内閣告示第三十二号をもって、これを告示した。今後各官廳においては、この表によって漢字を使用するとともに、廣く各方面にこの使用を勧めて、当用漢字表制定の趣旨の徹底するように努めることを希望する。

昭和二十一年十一月十六日

内閣總理大臣

吉

田

茂

○内閣告示第三十二号

現代國語を書きあらわすために日常使用する漢字の範圍を、次の表のように定める。

昭和二十一年十一月十六日

内閣総理大臣

吉

田

茂

当用漢字表

(略)

(昭二一・一一・二六官報号外)

○内閣訓令第八号

各官廳

「現代かなづかい」の実施に関する件

國語を書きあらわす上に、從來のかなづかいは、はなはだ複雑であつて、使用上の困難が大き
い。

これを現代語音にもとづいて整理することは、教育の負担を軽くするばかりでなく、國民の生活能
率をあげ、文化水準を高める上に、資するところが大きい。それ故に、政府は、今回國語審議会の
決定した現代かなづかいを採択して、本日内閣告示第三十三号をもって、これを告示した。今後各
官廳においては、このかなづかいを使用するとともに、廣く各方面にこの使用を勧めて、現代かな
づかい制定の趣旨の徹底するように努めることを希望する。

昭和二十一年十一月十六日

内閣総理大臣

吉

田

茂

○内閣告示第三十三号

現代國語の口語文を書きあらわすかなづかいを、次のように定める。

昭和二十一年十一月十六日

内閣総理大臣

吉

田

茂

現代かなづかい

(昭二三・二・一六官報号外)

○内閣訓令第一号

各官廳

当用漢字別表の実施に関する件

さきに、政府は現代國語を書きあらわすために日常使用する漢字の範圍を定め、昭和二十一年内閣告示第三十二号をもって、当用漢字表を告示した。しかしながら、これは國民生活の上で漢字の制限が無理がなく行われることをめやすとしたものであって、國民教育における漢字学習の負担を軽くし、教育内容の向上をはかるためには、わが國の青少年に対して義務教育の期間において読み書きともに必修せしめるべき漢字の範圍を定める必要がある。

よって、政府は、今回國語審議會の決定した当用漢字別表を採択し、本日内閣告示第一号をもって、これを告示した。今後、各官廳においては、この表を制定した趣旨を理解し、これに協力することを希望する。

昭和二十三年二月十六日

内閣総理大臣

片

山

哲

○内閣告示第一号

当用漢字表の中で、義務教育の期間に、読み書きともにできるように指導すべき漢字の範囲を、次の表のように定める。

昭和二十三年二月十六日

内閣総理大臣

片

山

哲

当用漢字別表

(略)

(昭二三・二・一六官報号外)

○内閣訓令第二号

各官廳

当用漢字音訓表の実施に関する件

さきに、政府は、現代國語を書きあらわすために日常使用する漢字の範囲を定め、昭和二十一年内閣告示第三十二号をもって当用漢字表を告示した。しかしながら、漢字を使用する上の複雑さはその数の多いことによるばかりでなく、その読みかたの多様であることにもよるのであるから、当

用漢字表制定の趣旨を徹底させるためには、さらに漢字の音訓を整理することが必要である。

よって、政府は、今回國語審議会の決定した当用漢字音訓表を採択して、本日内閣告示第二号をもって、これを告示した。今後、各官廳においてつとめて、この表によって漢字を使用するとともに、廣く各方面に、当用漢字音訓表制定の趣旨の徹底するように努めることを希望する。

昭和二十三年二月十六日

内閣総理大臣

片

山

哲

○内閣告示第二号

現代國語を書きあらわすために、日常使用する漢字の音訓の範圍をおおむね次の表のように定める。

昭和二十三年二月十六日

内閣総理大臣

片

山

哲

当用漢字音訓表

(略)

関係事項

戸籍法
戸籍法施行規則
教科用図書検定規準

○戸籍法 (昭二二・一二・二二官報)

戸籍法を改正する法律をここに公布する。

昭和二十二年十二月二十二日

内閣総理大臣

片

山

哲

法律第二百二十四号

第五十條 子の名には、常用平易な文字を用いなければならない。

常用平易な文字の範囲は、命令でこれを定める。

司法省令第九十四号 (昭二二・一二・二九官報号外)

戸籍法施行規則を次のように定める。

昭和二十二年十二月二十九日

司法大臣

鈴

木

義

男

第六十條

戸籍法第五十條第二項の常用平易な文字は左に掲げるものとする。

- 一、昭和二十一年十一月内閣告示第三十二号当用漢字表に掲げる漢字
- 二、片かな、又は平かな（変体かなを除く）

○教科用図書検定規準（昭二四・二・九官報号外）

主管 教科書局 検定課

文部省告示第十二号

教科用図書検定基準を左のとおり定める

昭和二十四年二月九日

文部大臣 下 條 康 磨

第一章 國語科の検定基準 第一節 小学校國語科の検定基準

二 必要條件・（四）表現・3漢字かなづかい・ローマ字つづりは適切であるか。

（1）使用する漢字は、固有名詞のほかは、原則として当用漢字別表の範囲内に限り、それ以外の漢字を必要とする場合には、当用漢字表中のなるべくやさしい漢字を用いることとする。漢字の用い方については、当用漢字音訓表による。

（2）固有名詞などにおいて、やむを得ず（1）以外の漢字の用い方をするときは、初出の際にふりがなをつけるなどの方法によつて、読み方を示すこととする。

（3）学術用語においても（1）に示した通り、当用漢字表中の漢字を用い、それにはないものは、なるべくかなで書くか、あるいは、やさしい漢字を用いてやさしい書き方をし、初出の際にふりが

なをつけるなどの方法によつて、読み方を示すこととする。

- (4) かなは、特に必要な場合のほかは、原則として、ひらがなを用いる。(ふりがなの場合を含む。)

- (5) かなづかいは、現代口語文においては現代かなづかいを用いる。(ふりがなの場合を含む。)

- (6) 原典をそのまま載せる必要がある場合には、(1)から(5)までによらなくてもよい。(ふりがなの場合を含む。)

- (7) 送りがなは、おおむね現行の教科書の用例による。

- (8) ローマ字つづりは、特別の必要のない限り、訓令式・日本式・標準式(ヘボン式)のうち、どれか一つを一貫して用いる。

第二節 中学校高等学校國語科の検定基準 二 必要條件 (四) 表現・3・(1)

第三節 高等学校國語科漢文の検定基準 二 必要條件 (一) 教材内容 3・(1)

文部省告示第二十号 (昭二四・三・二二官報)

教科用図書検定基準の一部を次のように改正する。

昭和二十四年三月二十二日 文部大臣 高 瀬 莊 太 郎

第一章 第五節 小学校國語科硬筆書方の検定基準 二 必要條件(四) 表現(略)